

《第 513 回(2024 年 5 月 9 日) 子どもの本の読書会記録》参加者:9 人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

『鬼の橋』 伊藤 遊/作, 太田 大八/画 福音館書店

5月、『鬼の橋』を読みました。平安時代に実在した^{おのたかむら}小野篁を題材としたファンタジーです。昼間は朝廷で働き、夜は冥界へ通い、閻魔大王のもとで役人として働いていたという伝説が残る小野篁。迷い込んだ冥界と現世で鬼や人々に出会い、成長していく少年・篁の物語です。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●ファンタジーはあまり読まないが、楽しく読んだ。伝説を上手に使うて物語ができています。子ども篁に親近感がわく。阿子那と非天丸^{あこな ひてんまる}の存在がよかった。非天丸がやけどを負って焼いたものが食べられるようになり、阿子那のお父さんのようになっていく。物語に出てくる橋の設定も面白かった。

●以前にも読んだ好きな本。自分のことが肯定できない篁が成長していく物語。鬼は自分の中に住んでいるもので、善にも悪にもなる。妹の比右子^{ひうこ}は鬼だったという母に、篁は母も篁自身も鬼だと感じる。人間の悲しさを感じた。非天丸の思う、人と鬼とが区別なく住める浄土があるといい。

●登場人物の心の内がよく描かれている。阿子那と非天丸に会って、篁は変わっていく。主人公は篁だが、物語の広がりを持っているのは阿子那。太田大八の絵がよい。登場人物の気持ちが絵に表れていて、物語を引き立てている。子どもの本はこうあって欲しいと思う幸せなラストがよかった。

●一気に読んだ。終盤の、篁の父が比右子のことを語る言葉に感動した。鬼と対峙するシーンも生き生きと描かれていて、子どもたちはわくわくするのは。阿子那の必死さ、心の美しさがよい。心が洗われる、救われる物語。ファンタジーだが、人間のことを考えさせられた。

●平安時代が好きで、魑魅魍魎な京都が好きなので、楽しく読み進めることができました。冥界と行き来することで少年時代の揺れ動く気持ちが表現されていて、成長していく篁の姿に感銘を受けた。阿子那と非天丸の素直さ、人間っぽさに触れることで成長していく篁が魅力的。坂上田村麻呂が話の中だけでも横になれてよかった。

●自分の不注意で妹を死なせてしまう。そういう心はなかなか癒せない。心理学者の河合隼雄は、物語で心が癒されると言っている。少しずつ少しずつ成長していく篁にカタルシスを感じた。何度も生死の境をさまよいながらも生きる非天丸に、傷ついた子どもは希望を感じるのでは。映像が浮かぶ文章と挿絵がよい。

●久しぶりに児童書を読んだが、奥が深いと思った。今日ここで感想を聞いて、もう一度読み返したいと思った。傷つき立ち上がれない篁が、阿子那と非天丸に出会い成長していく。ファンタジーだが、ファンタジーっぽくない物語。

●篁の成長する姿が実に上手に描かれている。平安時代の京の都も登場人物も魅力的。篁は、坂上田村麻呂に助けられ、学ぶことも多かったのではないかな。田村麻呂があのでゆっくりできるとよい。篁に最も影響を与えたのは阿子那。強くてもっすぐで純粋な阿子那は本当にすごい。

●読後に光が感じられるような物語。篁が悩んで、いろいろな経験をした上で、前向きになれる姿がしっかり描かれている。坂上田村麻呂や非天丸、阿子那との出会いによって、誰もが不安を抱えながらも、周囲を思いやっていることを知っていく。これから様々な経験をするであろう子どもたちに読んで欲しい。

次回 6月13日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

□『だれのせい?』 ダビデ・カリ/さく, レジーナ・ルック・トゥーンベレ/え, ヤマザキマリ/やく green seed books

※申込み・参加費は不要です。